

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カラズFC プリマヴェーラ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2024年 12月 25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58人	(回答者数) 56人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2024年 12月 25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	サッカーというスポーツや運動療育ならではの、体の動かし方や体力が身に付きルールの理解も学べる事。	・体を動かす前に準備運動をしたり、ウォーミングアップを取り入れ、怪我の防止に努めている事。 ・サッカーの技術向上と一緒に様々な運動の分野に活かせるように体力の向上や体の可動域を広げることを意識した活動内容を取り入れている。	理学療法士による専門的な見地をもとに、歩く時走る時の姿勢や足のつき方、体幹の強度などにフォーカスをあてた支援を取り入れていく。
2	集団行動が身につくだけでなく、他児童と協力してチームスポーツを楽しめる事。	・思い通りにならない事を前提として、失敗したり間違える事を肯定しながら、思い切り取り組めるように促している。 ・練習を通して、話の聞き方や返事、人との関わり方を身につけられるように支援している。	・環境や活動の流れに変化をつけ、場面の切り替えに対応出来るようにしていく。 ・周りの人との関わりを通して自分の意見を発信したり、相手の話を受容したり出来る様な機会を設けていく。
3	自己管理を学べる事。	・サッカー活動の前後の練習や試合では、自分の荷物の管理や着替えを自分自身で行うように促している。保護者から離れた環境で自分で出来るが育つように支援している。 ・また、自分の持ち物の管理だけでなく、自分が使うサッカー道具の準備や片付けを習慣化する事で周りを見て状況判断する力や積極性が身に付けられるようにする。	・気温に応じた衣服の調節が鈍い児童や水分補給の適切な量とタイミングが計れない児童もいる為、適切を知らせながら着替えの必要性を指導していく。 ・時間に余裕のある児童や見通しが持てる児童を優先して準備や片付けの声掛けを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	天候によっては、活動場所が変更になったり、サッカー活動が出来ないもしくはレクリエーションに変更等、活動の幅が制限される事。	天候が回復する可能性を見込んで、活動場所の変更可能な限界のタイミングまで待機している為、屋内の活動場所の空きがない事がある。	・判断の基準やタイミングを明確にする。 ・想定される可能性を考慮して、様々な場所を模索しておく ・サッカー以外の活動内容の幅を広げる。
2	学習スペースと余暇時間を過ごす場の隔離が出来ていない事や面談したりカームダウンしたりするの為のスペースが十分でない事。	事業所での生活スペースが、人数に見合った広さでない事が考えられる。	・パーティションを有効に活用し、視覚を遮る事で集中力を養う。 ・話し方や声のボリュームの調節を絵カード等で視覚的に説明しながら指導する。
3	事業所での様子やサッカー活動での様子が保護者に十分に伝わっていない事。	サッカー活動中は、怪我やトイレ等児童の対応で写真を撮る事が十分に出来ていない為、写真を通して保護者に報告出来る曜日に偏りが生じている。	一人一人の役割を決めて、現場での動きを細分化する事も検討する。